

児童の現状・課題

素直で優しい児童が多く、指示されたことに対しては的確に取り組むことができる。一方で、主体性に乏しく、自分自身の現状を見つめ、計画を立てたり粘り強く取り組んだりする力は弱い。前向きに物事に向かおうとするポジティブさを育てていく必要がある。

学び続ける力を育むための重点目標

成功体験を増やし、学びを自ら進めるという意識を高める。他者との関わり合いを通して、理解度や進捗を振り返りながら学習ができるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.7%	85%	
⑧取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など、学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。	84.6%	90%	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①児童生徒が自分で計画を立てて学習をすすめる力を育むため、授業や家庭学習等において、手だてを講じたり、指導したりしている。	82.7%	85%	
⑦授業では、学習課題や学習過程等、児童生徒が学び方を選択する場を選択している。	69%	80%	

総括(5月)

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果から、国語科の無解答率が高く、特に目的に応じて自分の考えを書く問題において、全国や東京都とのポイント差が見られる。授業において、主体的に学習に取り組むために、自らが計画を立てたり、目的や相手に応じて学び方を選択したりする時間を意図的に設定することや学習のねらいを自分たちで明確化できるようにするための手立てを準備することを授業改革で取り組んでいくことに決めた。

総括(1月)

具体的な手だて①

見通す場面で、学習過程やねらいを話し合わせ、明確化(視覚化)し、挑戦したいと思えるような課題を選択させる。児童がより主体的に取り組めるように、ICTなどを活用した導入を取り入れる。

具体的な手だて②

授業の中で、様々な「選択」を意識させる。相手や目的に応じて、学習過程や思考ツール等を自ら選択できる時間を意図的に設定する。

具体的な手だて③

見直す・振り返る場面で、どのくらい分かっているのかを自分や友達と確認し、修正しながら学習できるようにする。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫
・教職員一人ひとりが、授業改革推進プランや学び続ける力を育む授業の構造図を常に取り出せる場所に置くことで、意識を高めていく。
・管理職の授業観察等の際は、授業改革の視点を意識し、指導案を教員にも配布するとともに、お互いの授業を見合えるようによびかけていく。

児童・生徒の現状・課題

学習への意欲は高く、課題に取り組むが、できないことがあると諦めてしまったり、次の手だてを取ったりすることができない。どこができていないのか、どうすればよいのかを振り返って考えられない。

**学び続ける力を育むための重点目標**

○子どもたち自身が、自らの学びを自ら進めるという意識を高め、理解度や進捗を振り返りながら学習できるようにする。

**具体的な手だて①**

学習内容や学習計画を単元の初めに示し、見通しをもたせる。

具体的な手だて②

単元の途中や1時間の途中で振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。

具体的な手だて③

共に学習する仲間、学習する場所、ツールなど、目的に沿って、自ら選択できる場面をどの教科においても毎時間設定する。

**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・研究の Classroom をつくり、日々の実践や意見、相談を日々書き込めるようにする。
- ・管理職の授業観察の際は、指導案を教員にも配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。

※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	80.3	85.0	82.5
②学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。	72.5	75.0	78.5

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	83.3	85.0	90.5
②学習をしてもできるようにならないときは、どうすればよいか、見通しをもたせている。	84.0	85.0	78.5

総括(5月)

全国学力学習状況調査の結果を見ても、無回答という児童が10%程度おり、最後まで粘り強く取り組むという力が弱い。それは、授業において、受け身的な授業が多く、児童自身に目標や目的がない状況であることや、自ら学び方を選択しながら学ばせることができていなかったことに課題があるからではないかと教員から声が上がった。そこで、日常の授業において生徒に選択させる場面を設定すること、そのために必要な手だてを教員がしっかり準備することを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)

教員の意識としては、児童に選択させる場面を設定し、授業改革は推進されている。しかし、児童自身が自ら計画を立てて学習できているという自覚は、教員の意識ほどはない。教科によって、単元によっては、もっと児童に計画を立てさせ、またそれを振り返らせる場面を設定していくことが必要である。分からない問題やできないことをへの対処方法についても手だてが必要である。